



教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：2,215千円（令和2年度～令和3年度）

コーヒーの廃棄物を活用した新たなフェアトレード商品開発に関わる実践的研究

目的・概要

フェアトレードのトレンドは、貧困削減から環境保全へと広がりつつある。本研究は、コスタリカを対象に、コーヒーの生産過程で生じる廃棄物（果肉や果皮など）を活用した、新たな商品開発を行うことを目的とする。研究上の特徴は、①文化政策・デザイン両学部の教員と学生が協働で行ったこと、②商品開発にあたっては、原料調達、輸入、加工、市場調査、パッケージデザイン、販売に至るまでのすべての行程に関わったことである。

期間

令和2年4月1日～令和4年3月31日

研究担当者

文化政策学部 国際文化学科 准教授 武田 淳（研究代表者）
 デザイン学部 デザイン学科 教授 日比谷 憲彦
 文化政策学部 国際文化学科 教授 下澤 嶽

スケジュール

令和2年4月～9月 COVID-19の流行に伴う調査計画の見直し。論文執筆1編。
 令和2年10月～3月 パッケージグラフィック分析、商品ロゴ1の作成、試作品開発。シンポジウムでの発表2件、書籍（共著）執筆1編。
 令和3年4月～9月 パッケージデザイン2種、ポスター2種、リーフレット1編作成。市場調査の実施。オンライン現地調査、輸入交渉の実施。論文・書籍3編執筆。
 令和3年10月～3月 販売店との交渉、商品製造、プレスリリース、取材対応。翻訳書2編の執筆、報告書1編の執筆、ポスター1編作成。

研究成果

【実践活動としての成果】

地元企業との連携を経て、成果物としてカスカラティー（コーヒーチェリーティー）を商品化し、静岡県内のフェアトレードショップ3店舗および本学大学生協にて販売を継続している。

【研究活動としての成果（デザイン）】

コーヒーやお茶などのパッケージグラフィック分析を実施した上で、2つのパッケージデザインを作成した。併せて、ポスター3種類、リーフレット1編、ロゴ1種を作成した。なお、デザインの作業は、日比谷教授の指導のもと学生が作成した。

【研究活動としての成果（論文など）】

学術論文3編、書籍（共著）2編、翻訳書籍（電子書籍）2編、報告書1編、短報2編、発表（シンポジウム）3本などの成果を上げた。このうち、学生メンバーは、学術論文1編、翻訳書籍2編、発表2件に携わった。各業績の詳細は武田研究室のHP（<https://jun-takeda-lab.com/>）にて公開している。

【市民への研究成果の公表】

販売促進イベントを4回実施し、学生たちが直接研究成果を披露した。また、新聞社4社、ウェブマガジン1社、テレビ局1社の取材および本学webサイトを通じて本研究の情報発信を行った。



今後の研究成果の還元方法

【実践活動】

フェアトレードは継続性が重要であることから、成果物（カスカラティー）の販売は今後も継続していく。具体的には、商品のOEM化が実現し、静岡市のフェアトレード企業Teebomによって製造・販売が継続されるに至った。2022年8月にはインターネットによる販売も始まった。

（<https://fairtradeteebom.com/shop/item/6898/>）

このように、大学発の商品を実社会へ普及させたことが成果還元の一つである。他方、カスカラティーの味やパッケージの改良作業といった研究開発にかかわる機能は大学内に残す。学生サークル「りとるあーす」を主体としながら実践を継続し、研究代表者および分担者も適宜協力を行う。

【研究活動】

前項の通り大方の研究成果はすでに発表済であるが、これに加えて日本環境学会主催のセミナーでの発表が決定している。